**本年度の研究について**

研究推進部長　猪又　麻衣子（榴岡小）

**１　研究主題**

**自ら学級・学校づくりに参画し，多様な他者と共生する子供を育てる特別活動**

**２　主題設定の理由**

1. **学習指導要領の趣旨から**

小学校学習指導要領（平成29年告示）において，特別活動で育てたい資質・能力が，三つの柱で示された。そして，「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点で目標や内容が整理された。

（１）多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し，行動の仕方を身に付けるようにする。

（２）集団や自己の生活，人間関係の課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。

（３）自主的，実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，自己の生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。

本研究では，（１）の内容から，他者を受け止めながら助け合ったり協力し合ったりすることの価値を理解すること，（２）と（３）の内容から，よりよい学級・学校生活づくりなど集団や社会に参画し，様々な問題を主体的に解決することが特別活動において求められていると考えた。

そこで，「人間関係形成」「社会参画」に主眼を置くことで，児童の「自己実現」を図っていきたい。多様な他者の価値観や個性を受け止め，他者のよさや可能性を認識し，価値のある存在として認め，助けたり協力したりすること，そして，よりよい学級・学校生活づくりなど集団や社会に参画し，様々な問題を主体的に解決していくことを重視していく。児童が自ら学級・学校づくりに参画し，多様な他者と共生していく中で，自己の在り方や生き方を考え，「自己実現」が図られていくと考える。

1. **今日的課題から**

　　内閣府が発表した『今を生きる若者の意識～国際比較から見えてくるもの～』（平成26年度）によると，「社会をよりよくするため，社会問題に関与したい」と思っている日本の若者の割合は４割強，同様に「私の参加により，変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」と思っている割合は約３割である。いずれも諸外国に比べて日本が最も低い結果となっている。

このように日本の若者の社会参画意識の低下が指摘される中で，将来，地域や社会に目を向け，社会の一員として活躍できる人になってほしいと考えた。そのとき，まず，子供たちにとって最も身近な社会である学級や学校の生活に目を向け，自分たちの力でよりよくしていこうという学級や学校づくりへの参画意識を高めることが重要であると考えた。

また，いじめや不登校等の未然防止を具現化する上でも，多様な他者の価値観や個性を受け止め，一人一人のよさや可能性が十分発揮されながら助け合ったり協力し合ったりすることは，より一層必要になると考えた。

1. **仙台市の子供の実態から**

仙台では，「杜の都の学校教育」の重点事項に，自分づくり教育の推進を掲げている。児童が自ら学ぶ意欲を持ち，人や社会との関わりを大切にしながら，将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育むことをねらいとしている。このことからも，自ら学級や学校づくりに参画し，多様な他者と共生する子供の育成は重要であると考えた。

「全国学習状況調査(平成29年度)」によると，仙台市の子供は，「学級会などの話合いの活動で，自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり，折り合いをつけたりして話し合い，意見をまとめている」と考えている子供の割合は55.4％と約半数に留まった。また，「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思う」と考えている子供の割合は，72.1％であった。考えの違いを受け止めたり，認めたりすることができず，自分の意見に固執したり，人と向き合うことを避け，違いを主張できなかったりといった課題が残る。

さらに，昨年度の研究の課題として挙げられたことは，学校生活を楽しく，豊かに，よりよいものにしたいという願いはあるものの，集団の中で起きていることに対して関心がなかったり，気付かなかったりといった子供も少なくないということである。その意識や力が足りないことに気付いていない子供の現状も課題として挙げられた。

これらの課題を解決するためには，多様な他者の価値観や個性を受け止めた上で自分の意見を主張することや課題に気付く目を育て，解決するために話し合って決めたことに自主的，実践的に取り組むことができるようにすることが必要である。

以上のことから，自ら学級や学校づくりに参画し，多様な他者と共生する子供の育成に努めたいと考え，本主題を設定した。

**３　研究の構想**

**（１）研究主題**

**【自ら学級や学校づくりに参画する】について**

　　　「自ら学級や学校づくりに参画する」とは，集団や自分自身の課題を見いだし，よりよい学級・学校生活づくりを目指して，自ら様々な課題を解決することと捉える。

課題を解決するとは，現在生じている問題を解消することだけでなく，集団や自分自身の現在や将来の生活をよりよくするために取り組むことも指す。来らい身でなく題に気付き付き工夫組むことができるようにする。

課題を解決するために，話し合うことを重視し，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。

**【多様な他者と共生する】について**

「多様な他者と共生する」とは，年齢や性別といった属性，考え方や関心，意見の違う他者の価値観や個性の違いを受け止め，他者のよさや可能性を認識し，価値のある存在として認め，助けたり協力したりすることと捉える。

児童が自ら学級・学校づくりに参画し，多様な他者と共生していく中で，自己の在り方や生き方を考え，「自己実現」が図られると考える。

**（２）目指す子ども像**

　　本研究では，以下の（ア）（イ）のような子供像を目指す。

**（ア）自ら集団や自分自身の課題を見いだし，考え，実践する子供**

学級や学校の目標を意識しながら，集団や自分自身の課題を見いだし，「よりよい学級・学校生活にするためにはどうすればいいか」と考え，行動に移す子供である。

**（イ）自他の良さや可能性を尊重できる子供**

自分だけでなく，他者の価値観や個性を受け止め，自分と他者の良さや可能性を認め，価値ある存在として尊重し，助けたり協力したりする子供である。

**（３）研究の方向・視点**

　　本研究では，自ら学級・学校づくりに参画し，多様な他者と共生する子供を育てるために，以下の２つの視点を設定して取り組む。研究を進めるにあたって，だれにでも分かりやすく，取り組みやすい特別活動になるように努めたい。

　**視点１　自ら集団や自分自身の課題を見いだし，考え，実践する子供を育てるための指導方法および活動計画の工夫**

**視点２　自他のよさや可能性を尊重できる子供を育てるための指導方法および活動計画の工夫**

**（４）研究の方法**

　　　地区で研究を行うことで，研究主題にせまる。本研究主題は４年次計画で取り組むこととする。

　**○地区研究**

　　① 研究授業や実践発表を行う際には「誰にでもできる特別活動・一人一人の教師のよさを生かした授業」という本部会の伝統的な考えに基づき，「輪番制」を生かしながら取り組む。各校の代表者で組織する「地区特活代表者会」が地区研究の運営母体となる。各校間の情報交換を行って日々の実践に活かすとともに，授業研究会の計画・運営・調整等を行い，地区研究のまとめにあたる。

 ② 地区研究の充実に向けて，各地区１名の市研究推進委員を置き，授業者・発表者への支援にあたる。また，各地区１名の地区運営委員を置き，地区の常任委員とともに地区研究の運営のお世話役をする。

**○内容別研究**

1. 内容別研究は，本部会の研究を進める上での理論的・実践的な柱として，地区の授業研究や実践発表の支援を行う。
2. 県大会内容別分科会に向け，発表者の支援と研究の推進を図る。

**○各部会**

　　① 研究推進部は，研究のあり方や方向，課題の検討などを行うとともに，地区研究と内容別研究を推進する。地区研究の推進にあたっては，市全体の研究と各地区との連絡調整を行い，研究の充実を図る。

1. 研究紀要・広報部は仙台市特別活動研究会のホームページを管理し，各地区の研究の様子・

指導案や実践報告・その他の特別活動部会にかかわる的確な情報を伝える。また，研究成果をまとめた「特活仙台」をホームぺージ上で紹介する。

1. 研修部は，「夏の一泊研修会」を夏期休業中に開催し，会員の研修を深める。

　　④ 新聞展部は，「学級・学校新聞展」「新聞づくり講習会」を開催する。